

ハムスターの観察ネットワークの構築

Construction of a hamster-observation network

*野田 洋一¹、長尾 年恭²、藤縄 幸雄³、織原 義明²、鴨川 仁⁴

*Yoichi NODA¹, Toshiyasu Nagao², Yukio Fujinawa³, Yoshiaki Orihara², Masashi Kamogawa⁴

1. 有限会社テラテクニカ、2. 東海大学海洋研究所、3. 一般社団法人防災減災技術開発機構、4. 東京学芸大学物理学科
1. TIERRA TECNICA Ltd., 2. Institute of Oceanic Research and Development, Tokai University, 3. Organization for Development of Resilient Communities, 4. Department of Physics, Tokyo Gakugei University

動物異常行動が地震予知に応用できるか否かを議論するためには、地震先行現象としての動物行動を確立する必要がある。そのためには科学的な研究対象としなければならず、動物の挙動を定量化することが求められる。動物の挙動の定量化については、日々の観察やセンサーを用いた定量化、既にある畜産分野である卵の生産量などの数値データを利用する手法などが考えられる（力武、1978）。

近年のパソコンやスマートフォン、IoTセンサーなどの技術の発展は、いままで不可能であった専門機関を問わない世界規模での動物の24時間モニタリングを可能とするものであり、科学的データとしての活用が期待される。

ここではパソコン、スマートフォン、IoTセンサーを利用した、全国で飼育されているハムスターの回し車の回転数を収集して共有化するネットワークの構築について紹介する。

キーワード：宏観異常現象、動物異常行動

Keywords: macroscopic anomaly, anomalous animal behaviour